

2021 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	近藤 伸介
研究テーマ	ショーペンハウアーの意志とアーラヤ識——現象世界の背後にある存在基盤——
研究概要	本研究では、ショーペンハウアーにおける「意志」と唯識における「アーラヤ識」を比較する。この両概念は、誕生した時代も地域も大きく異なり、互いに影響がなかったにも関わらず、ともに現象世界の背後にあり、かつ現象世界そのものを生じさせる存在基盤として高い類似性を有している。本研究では、ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』、及びアサンガの『撰大乘論』を主要テキストとして、意志とアーラヤ識の両概念について比較検討し、その共通性を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本研究は、「ショーペンハウアーの意志とアーラヤ識——現象世界の背後にある存在基盤——」と題し、ショーペンハウアーにおける「意志 Wille」と唯識における「アーラヤ識 ālayavijñāna」を比較する。本研究では、ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界 <i>Die Welt als Wille und Vorstellung</i>』（1819 年）（以下、『世界』と略）、及びアサンガ（無著、無着）の『撰大乘論 <i>Mahāyāna-samgraha</i>』を主要テキストとし、意志とアーラヤ識の両概念について比較検討し、その共通性を明らかにする。</p> <p>ショーペンハウアーと仏教の比較研究はすでに多数存在するが、『世界』に展開されている彼の思想に最も近いのは、仏教の中でもとりわけ唯識思想であり、また、ショーペンハウアーがあらゆる現象を生み出す源泉とした「意志」に最も近い仏教の概念は何かといえ、それは我々の心の根底を成し、そこから我々の一切の認識を生じさせる「アーラヤ識」以外にないと思われる。にもかかわらず、唯識に特化したショーペンハウアーとの比較思想研究はこれまで存在せず、正面から意志とアーラヤ識を比較した研究もこれまでなされてこなかった。よって、本研究は両概念の比較をテーマとしたおそらく初の試みであり、ショーペンハウアー研究としても唯識研究としても、新たな地平を切り開くものとなるはずである。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕単「ショーペンハウアーの意志とアーラヤ識」『比較思想研究』48号、pp. 76～83、比較思想学会（2022年3月、査読有）</p> <p>〔発表〕単「ショーペンハウアーの意志とアーラヤ識——現象世界の背後にある存在基盤——」比較思想学会第48回大会（2021年6月26日、東京大学、オンライン）</p>
3. 今後の課題	<p>本年度の研究では扱いきれなかったショーペンハウアーと唯識が語る「解脱」と「無」について比較する。ショーペンハウアーは『意志と表象としての世界』において、解脱は意志の否定によってなされるとし、その否定によって時間と空間、主観と客観といった認識の枠組みが消滅し、その結果、表象としての現象世界のすべてが無に帰すると述べている。そして、その後に出現するのが解脱の境地としての涅槃であるという。一方、『撰大乘論』によれば、解脱はアーラヤ識の消滅によってなされるとされ、その過程で現象世界を構成していたあらゆる形相が消滅し、表象そのものも無であることが明らかになるという。そして最終的には、存在基盤がアーラヤ識から法身へと転換して解脱は完成するという。両者が語る解脱の過程及び解脱後の境地には高い類似性が見られ、本研究では解脱と無という二つの観点からそれらについて比較する。</p>